
不滅なるものV S 超サイヤ人3 プロロー

ランチュウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不滅なるものVS超サイヤ人3ブロリー

【Nコード】

N6233I

【作者名】

ランチュウ

【あらすじ】

かつて、コックカワサキを取り込んで敗北したヴェインが、ドットになったブロリーに復讐をする！！

ブロリーが超サイヤ人3になった驚愕のきっかけが！？

（前書き）

久しぶりの二次創作。レイジングブラストの発売日に合わせて投稿するつもりだったけど、間に合わなかった・・・。

とりあえず、前回作ったFF12×ドラゴンボール小説の続キーです。

前回、ブロリーの力を持った猫に負けたヴェイン……。しかし、彼はラストリーヴのおかげで助かっていた……！

ヴェイン「くそ、ブロリーめえ……」

許さんぞー！！！！」

ヴェインは、ブロリーを倒すために再び不滅なるものになった！

一方、そのブロリーはパラガスと一緒に平穏に暮らしていた。

カカロットのことを憎みながら……

ブロリー「カカロット……カカロット……」

パラガス「ブロリー、一体どうしたというのだ？」

すると、雑兵が上がり込んできた！

雑兵「申し上げます！惑星シャモに不滅なるものが現れました！」

パラガス「シュワット！！（しまった！！）」

パラガスが驚いたのには訳がある。家事や庭の掃除を手伝わせるシャモ星人が絶滅してまったら、全て自分でやらなければならないから……。

トランクス「なんてのは、嘘でーす！！」

ベジータ「ダニイ！？」

パラガスが驚いたのは、過去に倒した不滅なるものが再び現れたからだっただけ！

パラガス「その通り。あんな最低な星（惑星シャモ）に何の未練もない」

ベジータ「さっそく、不滅なるものの討伐しに出かける。

あとに続け、ブロリー！」

ブロリー「出来ぬう！！」

ベジータ「ふおおあ！？」

キーン ドーン・・・

このあと、カカロットが踏まれたり、昼寝中のピッコロが蹴られるといったことがあったが、なんとか惑星シャモへたどり着いた！

ブロリー「ヴェイン、どこだあ！？」

すると、目の前に不滅なるもの〃ヴェインが現れた！

ヴェイン「俺は逃げも隠れもせん！！かかってくるがよい！！！」

ベジータ「ヴェイン、でしゃばるなと言ったはずだ。

・・・ふぉあ!?!」

キーン ドーン

ヴェイン「早く、戦えー！ー！ー！ー！」

ヴェインはレーザーで辺りを吹き飛ばした！

シャモ星人たち「アッー！」

ブロリー「ははははー！！」

もっとやらなければ、俺はこの星を破壊しつくすだけだあ！ー！ー！」

カカロット「ヴェイン、許せねえ・・・！ー！」

トランクス「あんなやつがレーザーの兄として存在していたら、レーザーの未来は破壊し尽くされてしまう！ー！」

ブロリー「無視か・・・」

カカロットは不滅なるものに全力でカメハメ波を放った！！
しかし、不滅なるものには全く効いていない！

トランクス・悟飯「ませんこー！ー！ー！」

しかし、不滅なるものには効かなかった！

ヴェイン「喰らえ！ー！」

ヴェインは広範囲を吹き飛ばした！！

一方、ベジータはコソコソしていた！

ピッコロ「ふて腐れているヒマがあったら、戦え！」

ベジータ「ヴェインは不滅なんだ……。不滅ということは死なないのだから、倒せるわけがない……」

ピッコロ「なに寝言いつてやがる！！倒せないラスボスがいるわけがない！！！」

ブロリー「倒せないラスボス……？
この俺だあ！！！」

ブロリーはそういうなり、ピッコロを蹴りあげた！

ピッコロ「クソマアアア！！！」

ついでにベジータも！！

ベジータ「ふおお！？」

キーン ドーン

ブロリー「皆よく頑張ったが、とうとう俺のターンがきたようだな・
・」

パラガス「いいぞブロリー！お前のパワーでヴェインを消し去ってしまえーーーー！！」

ブロリー「さあ、来い！！ここがお前の死に場所だぁーーーー！！！」

ヴェイン「まあ待て。お前にある人物を合わせてやる！」

ヴェインはそういうと、闇の中から、ザーボンとドドリアとナツパが現れた！

ザーボン「暴れるぜ！」

ドドリア「またんか、甘ん……。ザーボン！」

ナツパ「さあ、最上の獲物よ、俺を楽しませてみる！！！」

ブロリー「ハゲか……。ふふふふ！！！」

モア「（ナツパの声を聞いて）ま、まさか……」

ナツパ「ふん、カスめ！虫けらめ！！腑抜けの腰抜け……」

ブロリー「って、なんだぁ！？」

モア「（ナツパは）りよ……。呂布だぁーーーー！！！」

パラガス「勘違いするな……」

パラガスは手から緑のビームを放った！

モア「あ、あ……。アッー！（爆死）」

ベジータ「ドドリアは俺に殺らせろーーーー！！！」

はあゝ、げえーーーー!!」

ベジータのビーム攻撃を喰らったドドリアは、あっという間に死んでしまった!

ザーボン「おっさん?おっさん!・・・ドドリアーーーー!!」

ベジータ「お前もついでに死ねーーーー!!」

ベジータはザーボンを殴り殺した!

ザーボン「少し・・・暴れすぎたか・・・(死)」

ナッパ「ベジータ!キサマ、よくも俺のブルマちゃんを・・・。死んで償うがいいーーーー!!」

ベジータ「勘違いするな。あいつの方からくつついてきやがったんだ!

ビクバン・アターーーック!」

ナッパはビクバンアタックをまともに喰らった!

ナッパ「馬鹿な!?この俺が・・・負けただと!!!??」

ナッパは自分が負けたことを信じられぬまま、爆死した・・・!

ベジータ「けっ、汚ねえ花火だ・・・」

ブロリー「でしゃばりめえ!!」

ベジータ「ふぉあ!？」

キーン ドーン

ブロリーは、ベジータが目立っていたことがおもしろくなかったよ
うだ！

ブロリー「はい・・・」

ヴェイン「ギニュー特戦隊も、お前に挨拶したいようだ・・・」

ヴェインはそういうと、闇の中からギニュー達を呼び寄せた！

ギニュー「男磨くぜ！」

リクーム「お命頂戴！」

ジース「私は仙界の者だ・・・」

バータ「趙子龍、まいる!!」

グルド「臭い息を喰らわせてやる！」

ブロリー「何かが・・・違う・・・」

カカロット「ヴェイン、説明してやれ！

ドドリア以外の奴らは声改戦士だってな！」

声改戦士とは・・・中の人が代わったキャラのことである。なぜ

かドドリアは前と変わらなかったようだが・・・。
中の人が変わった以外、戦いかたに変化はないが、中の人と同じキ
ヤラの影響が少なからず出てきてしまっている・・・。

リクーム「おい、ジース！バータ！
このチビも俺に殺させてくれー！！！」

ブロリー「俺はでかいー、です・・・」

一方、グルドはベジータに倒されていた！

ベジータ「ブロリー、俺はグルド以外は倒せないから、よろしく・・・。
。。」

ふぉあ！？」

キン ドーン

バータ「かわいそうなベジータちゃん・・・」

そんなことしているうちに、カカロットはリクームを撃破していた。
・・・。

カカロット「わりい、ブロリー・・・。リクーム倒しちゃった！」

ブロリー「カカロットー！！！！」

ブロリーはエネルギー弾をぶちかました！
ジースとバータが討ち死にした！！

ギニュー「なんと！？特戦隊のみんなが・・・！！
弔わねば・・・」

ギニューは泣く泣く、死んだ仲間達を埋葬し始めた！

ヴェイン「ちつ・・・。どいつもこいつも使えぬ奴らだ・・・。
そうだ・・・！！」

ブロリー「頑張ったが、とうとう終わりの時がきたようだな・・・。
」

ブロリーが不滅なるものを葬ろうとした時、ヴェインは兄嫁を召喚
して、人質にした！

ヴェイン「フハハハハ！こいつと一緒に私を葬るつもりかね・・・。
？」

アーシェ「こ、こんな丸尾でカミューなヴェインに囚われるとは・・・。
」

ブロリー「なあに！？
な、なんて（藤木より卑怯な）奴だ・・・！！」

パラガス「俺の狙いは可愛い娘なのだからな・・・。ふあゝははは
！！」

パラガスがそういうと、ヴェインの顔面にキックした！

ヴェイン「ぐえーっ！？（丸尾」

ヴェインはとつさにアーシェを手から離してしまった！
落ちるアーシェを救出しようと、スケベなサイヤ人が・・・！！

ブロリー「可愛いあの娘を、お姫様抱っこオーーーーー！！！」

ベジータ「お姫様を抱っこするのは、サイヤ人の王子・ベジータの役目だーーーー！！！」

カカロット「ダメだ！！！！アーシェを助けるのは、オラだ！！！」

トランクス「嘘でーーーーす！！あの娘を助けるのは、僕でーーーーす！！！」

パラガス「勘違いするな……。娘を助けるのは俺だ」

しかし、痺れを切らしたピッコロがアーシェを救出した！

ピッコロ「仙豆だ。食べ・・・」

ピッコロはアーシェに仙豆を食べさせた！
これを見ていたエロリー達は怒り心頭だ！

ブロリー「虫けらめえ！！！」

カカロット「許せねえ・・・！！！」

ベジータ「でしゃばるなと言ったはずだ！！！」

トランクス「あんなやつがいたら、可愛い娘は・・・」

パラガス「これで俺の野望もおしまいだ……」

ピッコロ「ふん、馬鹿共め……」

ヴェイン「ええい、ごちゃごちゃと・・・
とりあえず、死ねえ！！」

ブ
ロ
リ
ー
ー
ー
ー
！
！
！
！
」

ヴェインはブローリーに向かって強力なビームを放った！

「ブローリーへあつ!?」

ビームがブローリーに向かってくる！その時！！

パラガス「危ない、ブローリー!!!」

パラガスはブローリーを突き飛ばした！

パラガスはブローリーの代わりにビームを喰らった！！

「ブローリーへあつ!？」

ビームを喰らったパラガスは地面に倒れた！

ブロリーはパラガスに近づいた！

パラガス「ブ、ブローリー……」

ブローリー「親父……。どうしてだ……。!？」

パラガス「ブロリー……。ヴェインを……不滅なるものを倒せるのはお前だけだ……。だから、勝ってくれ……。みんなのために……。FF12の未来のために……。そして、俺の分まで……生きて……。くれ……。…」

パラガスは力尽きた……。ブロリーはずっとパラガスを眺めていた……。

ブロリー「……。俺がヴェインのビームで死ぬと思っていたのか……。!?」

ブロリーの背後へ、不滅なるものが迫ってきた！

ヴェイン「お前もそいつの元へ送ってやる!!」

ヴェインは腕についている剣で斬りかかった！

すると、とっさにブロリーは振り向いてヴェインの剣をへし折った！

ヴェイン「なっ……。!?」

ブロリー「うぐう……。うおおおおー！！！！！！！！！！」

ブロリーを激しい光が包み込む!!

ヴェイン「へああ、目があー！目があー！！」

カカロット「（心の声：この現状は……。まさか!?）」

光の中からブロリーが現れた……。ブロリーの髪の毛はいつもよ

り長くなっていた！

なんと！！ブロリーは超サイヤ人3になってしまったのだ！！！！

ベジータ「伝説の超サイヤ人・・・3！？」

ブロリー「不滅なるもの、絶対に破壊してやる！！！！」

カカロット「ブロリー・・・、おめえどうやって超サイヤ人3に！？」

すると、孫堅が界王を通じて解説してくれた！

界王「悟空、ブロリーは悲しみによって超サイヤ人になった男だ。もしかすると、父親が死んだ悲しみが彼を超サイヤ人3にしたのかもしれない」

ブロリー「違う・・・」

カカロット「違っつてよ！」

孫堅「・・・」

孫策「カカロットってやつ、まさか俺達の親戚じゃないだろうな？」

ブロリーはおしゃべりしているカカロット達をよそ目に、ヴェインと戦っていた！

ヴェイン「私は不滅なんだよ？」

ブロリー「不滅になったとて、この俺を超えることは出来ぬう！！」

ブロリーは今までよりも強力になったデデーンを放った！

ヴェイン「なゝあゝあああつつつ！?!?!?!」

不滅だと思われていたヴェインの体が、崩れていく！！

ヴェイン「このままでは……。不滅なる鎧、動け！不滅なる鎧、なぜ動かぬ!?」

ヴェインが戸惑っていると、ブロリーが突進してきた！！

ブロリー「俺はお前を許すことはできぬう！！！」

ブロリーは不滅なるものの最大の弱点をパンチで吹き飛ばした！

ヴェイン「なああああーーーー！！！！！！」

ヴェインはついに不滅なるものもろともデデーンした！！！！

ブロリー「今度こそ終わったな……」

ブロリーはそういうと、カカロットには目もくれず、一人用のポットで帰っていった……。

カカロット「（とりあえず）イエーイ」

ギニュー「親父イーーーー！！！！（泣）」

パラガス「気持ちわりい！馴れ馴れしく近寄るな！！！」

こうして、FF12の世界に平和が訪れた。

（後書き）

ブロリーが超サイヤ人3になってしまっかけが、パラガスの死を目の当たりにしたから・・・ってな展開はないか！
あるいはカカロットに対する憎しみが無限を超えたか・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6233i/>

不滅なるものVS超サイヤ人3ブロリー

2010年10月22日00時26分発行